

中学校教科等研修講座(国語科)

教科等指導員 東中学校 教諭 横内 愛

担当指導主事：塩家 崇生

キーワード：指導力向上 言語活動 学習指導要領 主体的・対話的で深い学び 評価

1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題（またはテーマ）
1月10日（木）	東中学校 横内 愛 教諭	総合教育センター 3階多目的室・講演	「言語活動のすすめ」

2 主な内容

「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている今、国語科では言語活動が重視されている。言語活動が明確になることにより、生徒の主体性が引き出せる、思考したり表現したりする必然性が生まれる、学んだことを日常生活や他教科等の学習で活かすことができる等の効果が期待できる。そこで、言語活動について、実践例を紹介しながら指導するポイントの講演を行った。

(1) 言語活動の必要性について

生徒たちにとって授業が楽しいと感じられるのは「学習の内容がわかったり、技能が身についたりしたとき」「授業を通して他者との交流ができた、仲が深まったりしたとき」である。

また、取り組むやすい学習形態は「2人～4人組での学習形態」である。教師から生徒全体に対する一方向の授業ではなく、生徒同士で課題に取り組み、伝え合い、深め合う活動を授業に取り入れる必要がある。



(2) 言語活動を授業に取り入れる際の注意点について

授業に言語活動を取り入れる際には「『活動あって学びなし』にならないようにする」「活動用のグループを教師が意図的につくる」「キャリア教育の視点を入れる」「条件や型、見本を示す」「授業のねらいと評価基準を明確にする」「生徒同士が相互評価する場面をつくる」ことを意識する。

(3) 言語活動の効果について

言語活動をうまく取り入れると「生徒たちが主体的に学習に取り組める」「学習の理解が深まる・わかった感が残る」「テストでの得点率が上がる」「身につけたスキルを国語の他の活動や、学校生活、他教科の学習に活かすことができる」などの効果が見られる。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 「読み」の授業における言語活動について、教科書単元での実際の言語活動例をもとに、具体的な方法を学ぶことができた。
- ② 参加者が言語活動に対して持っていた疑問点や悩みについて、確認したり解決したりすることができた。

(2) 課題

今回は講演だったため、参加者が聞くことが中心の講座になってしまった。次の機会には講座を2回設け、1回目が講演、2回目を実践交流にし、うまくいったことや、そうでないことなどを交換し、授業力を高め合える場にしたい。